

( 1 4 番 伊藤勇三郎 議員 )

○議長（大西慶治君） 次に、通告順 2 番 伊藤勇三郎議員の一般質問を行いますので、伊藤勇三郎議員は質問席へ移動してください。

それでは、通告順 2 番 伊藤勇三郎議員の発言を許可します。

伊藤勇三郎議員。

○ 1 4 番（伊藤勇三郎君） 1 4 番 伊藤です。今回、報徳病院の耐震対策について町長にお尋ねいたします。国の地震予知が 0. 0 %であったにもかかわらず東日本大震災という超巨大地震が本年 3 月 1 1 日に発生し、東日本に甚大な被害をもたらし、その後も大きな余震が現在も続いています。海岸部では津波による被害が大きく報道されていますが、内陸部や山間部においても建物の倒壊、道路の寸断、がけ崩れはもちろん、ため池の決壊でも 7 名の方々が亡くなられています。この東日本大震災からわかるように、被災地において病院というのは被災者の命を救い守るために最も大切な施設であります。東日本大震災では多くの病院が被災し機能を失ったために多くの命が失われました。

東海地方を含めた西日本においても、東海地震、東南海地震、南海地震の連動による東日本大震災以上の超巨大地震の発生が予測されています。東日本大震災を教訓に、発生はくいとめることはできませんが、被害を少しでも少なく、一人でも多くの命を救うことはできます。このため、大台町で唯一の町立病院である報徳病院の耐震対策が急務であります。

震度 6 強あるいは震度 7 に対応した建物の耐震工事は当然であります。医療器具や医薬品の保護対策、天井等の落下防止、家具類の固定、転倒防止、非常用電源の確保あるいは食料品等の確保も必要であります。

町長は巨大地震に対しどのような考えであり、報徳病院に対しどのような耐震対策を行う考えであるか、お聞きいたします。

また大台病院は町立ではありませんが、大台病院の耐震対策についても、町長のお考えをお尋ねいたします。よろしくお願いします。

○議長（大西慶治君） 町長。

○町長（尾上武義君） それでは、耐震対策についてお答えをいたします。

議員ご指摘のとおり、東海地方から四国地方にかけての西日本において、東海・東南海・南海地震の巨大地震の発生が予測されておりますが、東日本三陸沖において去る3月11日マグニチュード9.0、最大震度7と予想していない巨大地震が発生し、これに伴い巨大津波も発生し、特に岩手、宮城、福島県は沿岸部が壊滅し、死者行方不明者が2万3000人を超える大被害に見舞われました。三重県においても沿岸部での養殖漁業等に被害が起きたところでございます。福島県では東京電力福島原子力発電所の放射能もれ事故も発生し、避難指示が出されるなど未曾有の大災害となっております。

東海地方で予想されております東海地震、東南海地震、南海地震につきましては、東海・東南海・南海連動型の地震が起きた場合で、最大のものはマグニチュード8.7と予測されております。平成16年9月29日に当町で発生いたしました死者行方不明者7人を出した豪雨災害以来、雨量情報、土砂災害情報、防災行政無線等、災害情報提供体制の整備を進めて、小中学校の校舎・体育館につきましては耐震工事を順次進めておりまして、本年度の宮川中学校体育館の天井の耐震工事で全て耐震が完了することになっております。また、東日本大震災を受け町の防災体制の強化を図るため、本年4月1日より総務課に課長級の危機管理特命監を新設配置をいたしました。今後想定される震災等の危機に即応できるよう準備してまいりたいと思っております。

さて、議員ご指摘の報徳病院の耐震対策であります。報徳病院は地域の災害時の拠点病院として、無くてはならない重要な拠点施設であり、非常に大きな役割を担っております。病院建物の耐震診断につきましては、平成21年2月に本館棟とスロープ棟の2箇所に分けて実施をいたしました。本館棟につきましては、建物の構造耐震指標値は0.67で、一般の建築物に必要とされる構造耐震指標0.6を上回っておりますが、不特定多数が利用する病院施設であることから用途係数1.25を乗じますと1階2階とも要求判定値0.75

を満たさない結果となります。一般の建物であれば構造耐震指標値は十分でございしますが、不特定多数が利用する病院施設を考慮したときには、もう少し構造耐震指標値を上げたほうがよいとの結果でございました。スロープ棟の構造耐震指標値は0.95で、用途係数1.25を考慮いたしましても地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低いとの総合所見が出されております。これを受けまして、耐震補強について検討してまいりましたが、本館棟1階に1箇所、2階に2箇所の補強壁を設置すれば構造耐震指標値0.75を満たす結果が得られ、その工事費についても安価ですむような工法が開発されてきたということがわかってきたのでございます。今回の東日本大震災をうけた構造耐震指標値の見直しの有無などを見ながら、耐震補強に取り組みたいと考えているところでございます。

次に、医療機器や医薬品の保護対策、家具類の固定、転倒防止対策でございしますが、一部で固定等の対策を講じておりますけども、全館的に再度見直し、足りないところは補強対策を講じていきたいと思っております。また天井の落下防止対策につきましては、天井面積が体育館、講堂、武道場といったような大きな面積では対策が必要とされておりますが、天井の面積が小さな建物でございしますので、特段の対策は必要ないと考えております。非常用電源につきましては、発電機を設置済みであり停電と同時に稼働するよう整備をいたしております。今回の大震災では被災地の病院も大きな被害に見舞われております。被害時に病院機能が失われることのないよう最善の対策を講じていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

大台厚生病院の耐震化につきましては、平成21年9月、病院経営の悪化と建物の老朽化が進み耐震診断の結果、建て替えが必要となったことを理由に厚生連は新病院の建設にかかる経費全額の負担を大台町と大紀町に求めてまいりました。

町といたしましては、紀勢地域の医療を確保するため、また予想される東海・東南海・南海地震に対応するため、厚生連の申し出に対し、厚生連、大紀

町、大台町の3者で負担することを厚生連に提案したところでございます。

その後、大台厚生病院の経営の向上や両町提案の負担割合への理解が厚生連から得られないまま、現在に至っているところでございます。

厚生連の要望する大台町と大紀町で施設整備等にかかる経費全額を負担することについては、両町の財政状況や事業主体が厚生連であること等を考えると到底承諾できる提案ではございません。

しかし、紀勢地域の安全・安心な医療を守るためには、先ほども申し上げましたとおり厚生連、大紀町、大台町の3者で整備費用を負担することについては必要かと考えておりますので、今後も厚生連側にご理解いただけるように努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いしまして答弁とさせていただきます。

○議長（大西慶治君） 伊藤勇三郎議員。

○14番（伊藤勇三郎君） 町長は就任前の選挙におきまして、地域医療を守りますと、命を守ることが最優先課題であると考えられていると公約されております。この一貫の考えで相当多数、耐震、備えをされておると思いますが、この報徳病院についてですね、耐震工事等で補助が国あるいは県から補助が出るかどうか。そこらもちょっとお聞きいたしたいと思っております。

それから、同じく大台病院についても耐震工事をする場合は、国や県から補助が出るかどうか、出なければ要望していただきたいというふうに考えておるわけですが、その点よろしくお願ひします。

それから、病院の肝心なのはお医者さんや看護師さん等々でございますが、お医者さんにつきましては町外から来られていると思うんですが、町営の個人というか、町営住宅でお医者さんが住んでいる場合、耐震工事がなされておるか、あるいはなされていなかったら、しなければならないというふうに感じておるんですが、地震が来てお医者さんの家が潰れたとなると、医療行為もできませんし、その点もお尋ねいたしたいと思っております。

○議長（大西慶治君） 町長。

○町長（尾上武義君） この施設を整備したおりに補助ということでございますが、まず地域医療再生計画ということで、いま県のほうに上げてございますが、これは報徳病院あるいは大台病院の連携とか、そういうようなところで計画を上げてございます。その部分についてはですね、数億円の補助を見込みながら連携ができないかというようなことで上げているわけなんです、本当にどこまで連携できるのかというようなことは、これは今後の課題でもございます。

で、報徳病院なり大台病院、個々の耐震対策と、こういうふうになってきますと、これは補助金は非常に難しいと、こういうことになってこようかと思えます。そういうことで、この大台病院についても三者で厚生連とか大台、大紀で何とかならんかというふうなことで、いま話を上げているようなことでもございますが、なかなか話がうまく進んでいないというようなことでもございます。またお医者さんに住んでいただいております住宅でございます。これは現在報徳病院では、3棟あるわけなんです、1棟はオクケーです。ただ後の2棟が老朽化をしてきておるというようなことでございますので、平成23年度で建て替えの計画を、1棟分ですが、させていただいております、来年度またもう1棟ですね、整備をしていきたいというふうに考えているところでございます。

現在3棟あるうち1棟については、そのようにお住まいでございますし、また後の1棟について、後の方については上真手の教職員住宅の一部を借りて住まわれております。それについては耐震はオクケーでございます。もう一方は通勤をしていただいておりますと、こういうような状況でございますので、その部分については心配はないのですが、当然この医師住宅というのは整備を図っていかないとということで考えておりますので、そのものについては当然地震に耐えられるという形で、設計はしていきますので、その部分は大丈夫かというふうに思っております。どうぞよろしく申し上げます。

○議長（大西慶治君） 伊藤勇三郎議員。

○14番（伊藤勇三郎君） 最後に聞いておきたいわけですが、国の地震予知が0%であったという東日本の大震災ですが、0%であったにもかかわらず突如発生したと、東海等の地震においては確率は示されておるわけですが、それでもいつ起こっても不思議ではないという状況でありますので、この対策についてはスピード感を持って、財政面のこともあろうかと思いますが、人の住民の命には代えれないわけですので、スピード感を持って対策をすべきだと思いますが、最後に町長にその点をお伺いいたします。

○議長（大西慶治君） 町長。

○町長（尾上武義君） 本館棟を中心にですね、耐震等を行っていかないかんとのことでございます。先ほども答弁をいたしましたように、そんなに大工事にならずにできるという手法が出てきたようでございます。もう少し検討する余地はあるかと思いますが、そういったようなことも見定めつつ早期に対応できるところはやっていきたいというふうに思っているところでございます。

これまでの耐震工事とこうなりますと、数億かけてですね、診療を休止しなくてはならないというふうなことでございます。4、5年前だったと思いますが、そういうことがございました、当然業務が非常に落ち込んだというところもあったわけなんでございますが、今回の場合はそこまでなくてもスムーズに本館棟の耐震工事ができるのではないかなと、こう思っておりますが、しっかりこれ見ながら対応してまいりたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

（「議長、終わります」と呼ぶ声あり）

○議長（大西慶治君） 伊藤勇三郎議員の一般質問が終了しました。